

病院長	地域医療連携部長	看護部長	事務部長	医療連携室

2024年度 第1回地域医療支援運営委員会議事録

日時 2024年5月30日(木) 14:00~15:00

場所 藤田医科大学岡崎医療センター大会議室2 / ハイブリッド形式

司会 市川 邦宏

出席者 【院外】(Zoom) 升川 浩子、青木 裕明、片岡 博喜

(来訪) 金澤 一徳、鈴木 勝久、加藤 政幸

【院内】鈴木 克侍、小島 菜保子、城取 光徳(代理)

欠席者 【院外】田那村 収、田中 浩之

【院内】碓氷 章彦

(敬称略)

1. 開会

・鈴木病院長より挨拶

当院では、昨年40名近くの人事異動があり、診療および経営に滞って赤字スタートとなってしまいました。しかし、今年は昨年と同様に人事異動がありましたが、同じ轍を踏まないよう、非常に良いスタートを切ることができました。皆様方のおかげとっております。感謝いたします。この病院ができた1丁目1番地の目的は、地域医療の、特に救急医療の崩壊を防ぎ貢献することです。当時、16,000台の救急車の需要があったわけですが、約半分の8,000台のみが岡崎市幸田町に搬送依頼、残りが市外に搬送されるという状況でした。この状況を打破するためにこの病院ができました。つまり、地域の声でできた病院といえます。救急車の応需は、1年目約5,000台、2年目約6,000台、3年目約7,000台でした。昨年は8,000台目標でありましたが、約7,900台でありました。この原因を追及すると、8月と1月にコロナのパンデミックがありました。第10・11波です。さらに、夏の熱中症やその他感染症、冬では血管疾患が多く、病院が満床になることが多かったことが原因と考えられます。その中の救急車不応需は約175台。これらをお受けすることができていれば、8,000台は応需できておりました。これを教訓に今年度は、様々な施策を講じ、8,000台を越えていく所存でございます。また、藤田学園は2030Visionというのを掲げております。その中には1つの柱として、地域および社会の災害に対する医療貢献が掲げられております。当院は、開院前にダイヤモンドプリンセス号における、コロナウィルス患者を受け入れたというところから始まりました。そのような医療貢献は、藤田学園の中でも先頭に立ってやっていきたいと思っております。引き続き進めていく所存です。まだまだ、開院して5年目に入ったばかりで、大きな災害に対する備えは十分ではないが、これからしっかり形成していきたいと思っておりますので、皆様方のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。また、今年度も当運営委員会は4回開催予定ですので、是非ご参加いただき、積極的なご意見をお聞かせください。

2. 当院からの報告（資料①）

・資料①の通り

前方/後方連携の実績、共同利用の実績、救急医療提供の実績、地域の医療従事者に対する研修活動、当院からのお知らせを報告。（鈴木）

3. 各委員からご意見ご要望等

【岡崎市医師会 理事 升川浩子】

いつも地域連携にご尽力いただきありがとうございます。医師の働き方改革が本格的になりご苦労も多いかと存じます。貴院の業務をうまく運ぶために、医師会へのご要望等あればご教示いただければと思います。今後ともよろしく願いいたします。

【岡崎薬剤師会 副会長 青木裕明】

依然として医薬品の供給不安が続いておりまして、病院様から出てくる処方箋に対して十分な対応ができていのかどうか不安であります。岡崎薬剤師会といたしましては、薬局間で連携をいたしまして、不足する薬剤をできるだけ患者さんにご不便をおかけしないように努めております。しかし、呼吸器系疾患の薬剤はどうしても足らない状況であります。カロナール等の鎮痛剤は緩和してきましたが、未だ配給に偏りがあるため、一部薬局には在庫がない場合もございます。私共はこの地域連携という形の中で、先生が処方したいお薬の供給を、また患者さんに不安や不備がないよう、対応させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。私事ではございますが、以前お伝えした調剤の完全自動化ロボットについて、恥ずかしながらロボットに頼ってしまい、先月末に不備が発生しました。作成した分包の中に薬のアルミシートの一部が混入しており、そのお薬を持たせた患者さんが、現在岡崎医療センターに入院しております。入院2週間後に貴院薬剤部より連絡が入り、取り換えにくるよう依頼いただきました。新たに薬を作り直し、初めて岡崎医療センターにお届けにまいりました。薬剤部の案内でバックヤードへ入室し、薬剤師さんたちの現場を拝見することができました。地域連携をしながら、同じ薬剤師として、一生懸命働いている先生方を拝見でき勉強になりました。今後も薬剤師会を頼っていただき、岡崎市内のよりよい医療の発展に貢献させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

→当院薬剤師も薬剤師会の先生方も患者さんに安全な薬の供給が第一の目的かと存じます。

引き続きお互いに協力し、様々なディスカッションが行えたらと思います。（鈴木）

【岡崎市保健所 所長 片岡博喜】

いつもお世話になっております。地域医療支援病院の機能をしっかり果たしていただき感謝いたします。昨年には、5月にコロナの5類移行、その後もコロナに対する処置等ございましたが、昨年度末をもちましてコロナ関係の対応は終了いたしました。患者の動向等は今年度の数字がベースになっていくのではないかと思います。ですから、次回の運営委員会ではいくつかの数字が見られると思うので、私共もしっかり協議していけると考えております。病床増床計画について、県が5月13日のホームページで病床整備計画について今後の方針について掲げております。令和6年度の既存病床数が基準病床数を下回る区域においては、

愛知県医療審議会および地域医療構想推進委員会に確認したうえで、病床の整備を行うこととします。という大前提を掲げております。また、但し書きで今後病床整備に係る考え方についてはお示しいたします。という但し書きがございまして、我々といましては、速やかに事前にそちらへ情報共有できたらと思います。また、今後も事務局との連携を密に行っていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

→病床増床計画ですが、片岡先生をはじめ岡崎市役所に様々な情報提供がないと実現できないと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。(鈴木)

【幸田町健康福祉部 参事 金澤一徳】

整形外科で使用されるロボット支援手術は、ROSA(ローサ)でよろしいでしょうか。

→はい。人工股関節と人工膝関節の対応、まもなく今年の秋には、人工肩関節も対応可能となります。(鈴木)

紹介率、逆紹介率について、地域医療支援病院の承認要件である紹介率65%以上、逆紹介率40%以上に合致しているということによろしいでしょうか。

→その通りです。(鈴木)

地域医療支援研修会について、7月より2部門で開催することだが、録画での放送か。

→リアルタイムでの放送です。2部門を同日に講演いたします。録画したビデオの視聴も検討しております。(鈴木)

病床増床計画について、幸田町からの救急搬送はほぼ100%岡崎医療センターへお願ひしており、是非とも計画を進めていただきたい。

→残念ながら、幸田町からの救急搬送をお断りしたことがあります。今後は、岡崎市幸田町からの救急搬送は、不応需なく100%応需する体制を作っていきたいと思っております。(鈴木)

【岡崎市立岡崎小学校 校長 鈴木勝久】

今年もよろしくお願ひします。昨年は、学校保健委員会や病院内バックヤードの見学ツアー等、本当にありがとうございました。今後こうした連携をやっていただけると幸いです。今年度、4月に新入生をお迎えし、834名34学級でスタートしております。学区を見渡しますと、マンションが3棟建設中でまだまだ増えていくのかと感じております。数年先には900名を超える見通しがございます。学校の方では、大きな怪我や事故等なく、先週も無事運動会を開催することができました。練習の音等ご迷惑をおかけいたしました。今後ともご支援ご指導よろしくお願ひいたします。

→岡崎小学校さんとは、ダイヤモンドプリンセス号以来、心温まる交流をさせていただいております。今年も、病院内バックヤードや手術支援ロボットの見学ツアー、白衣の着用、救急車の乗車など、滅多に経験できないことを積極的に実施していきたいと思っております。この経験から、医療に興味を持ち将来のきっかけづくりができればなと思っております。今年もよろしくお願ひいたします。(鈴木)

【岡崎学区総代会 会長 加藤政幸】

地元がいつもお世話になっております。股関節が悪く歩くのも不自由だった方が、先日自転車に乗っておりました。詳細を聞くと、岡崎医療センターで手術をしてもらい、このように動けるようになったと喜んでおりました。本当に地元を大事にさせていただいてありがたく感じます。今年も病院西側の駅南中央公園で催しを、岡崎小学校では夏祭りを実施する予定で

考えておりますので、ぜひ看護師さん等の派遣をお願いしたく存じます。また、よく岡崎小学校の子供たちがお世話になっているかと思えます。この地区は、岡崎小学校はもちろん翔南中学校も学区であります。私はそこの初代校長でした。ぜひ中学生に対する見学ツアー等もご検討いただきたい。最後に、前回地元で放射線技師をやっている方が、岡崎医療センターへ就職したいということで、お願いをさせていただきました。3月から働き始め、本人はとても喜んでおられました。今後も地域がお世話になりますし、地域としても岡崎医療センターに対してやれることがあれば、協力していきたいと思えますので、今後ともよろしく願ひいたします。

→いつもお世話になっております。中学生の見学というのは、小学生の皆様より就職までの期間が短いわけですから、非常に本人たちにとっては、考えるところが深く印象に残ると思えます。ぜひ実施していきたいと思えますので、早速行動に移してまいります。地元のフェスティバルについて、看護面等の支援は今年も続けさせていただきます。地元の方の雇用ですが、非常に大事なこと。災害等の有事の際に、職員がこの近辺に住んでいるということは、病院にとっても地元にとっても、災害対策の第一歩を踏み出す時に大変助かる。今後も積極的に対応していきたいと思えます。ぜひともご協力をお願いいたします。(鈴木)

4. 委員追加について

岡崎警察署、岡崎市消防署、幸田町消防署より各1名を追加したい。委員の皆様へ決議を諮りたい。(鈴木)

→全員賛成の満場一致で可決した。

後日各所へ案内、第3回地域医療支援運営委員会より参加予定とする。

5. 閉会

- ・次回以降の開催予定日は以下の通り

2024年度第2回地域医療支援運営委員会 2024年8月22日(木) 14:00~15:00

以上

文責：市川、小田